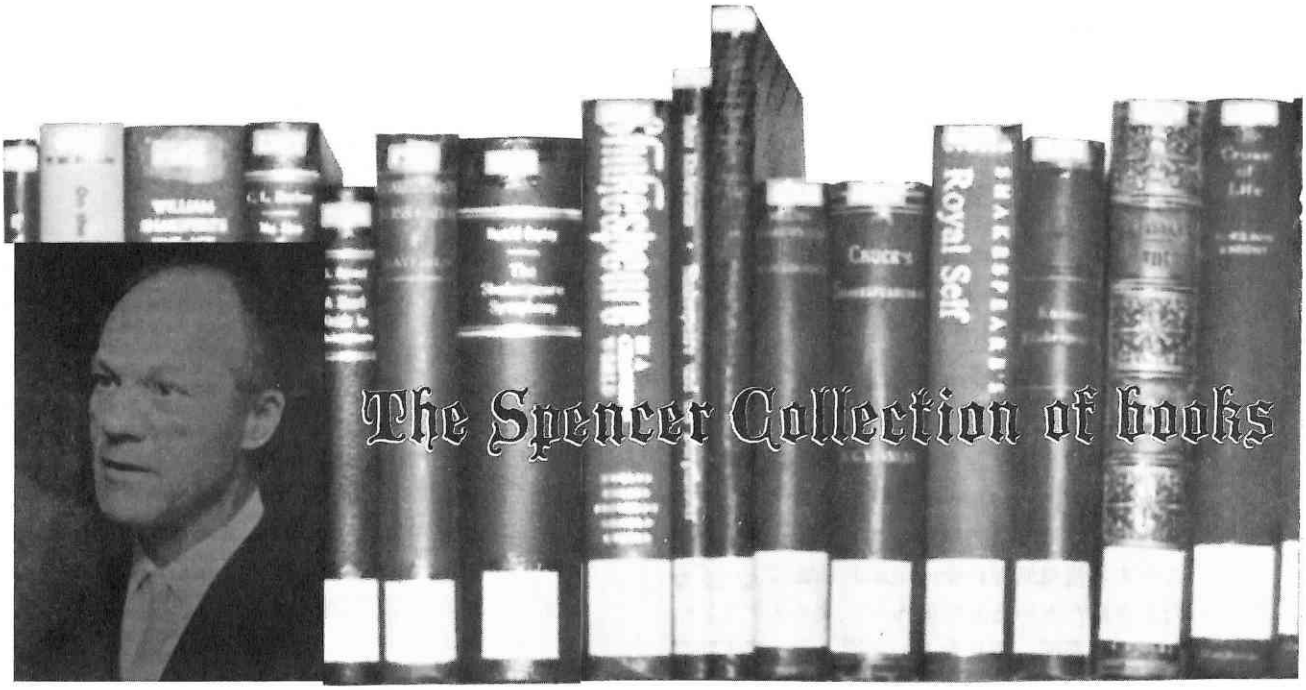
館蔵資料紹介



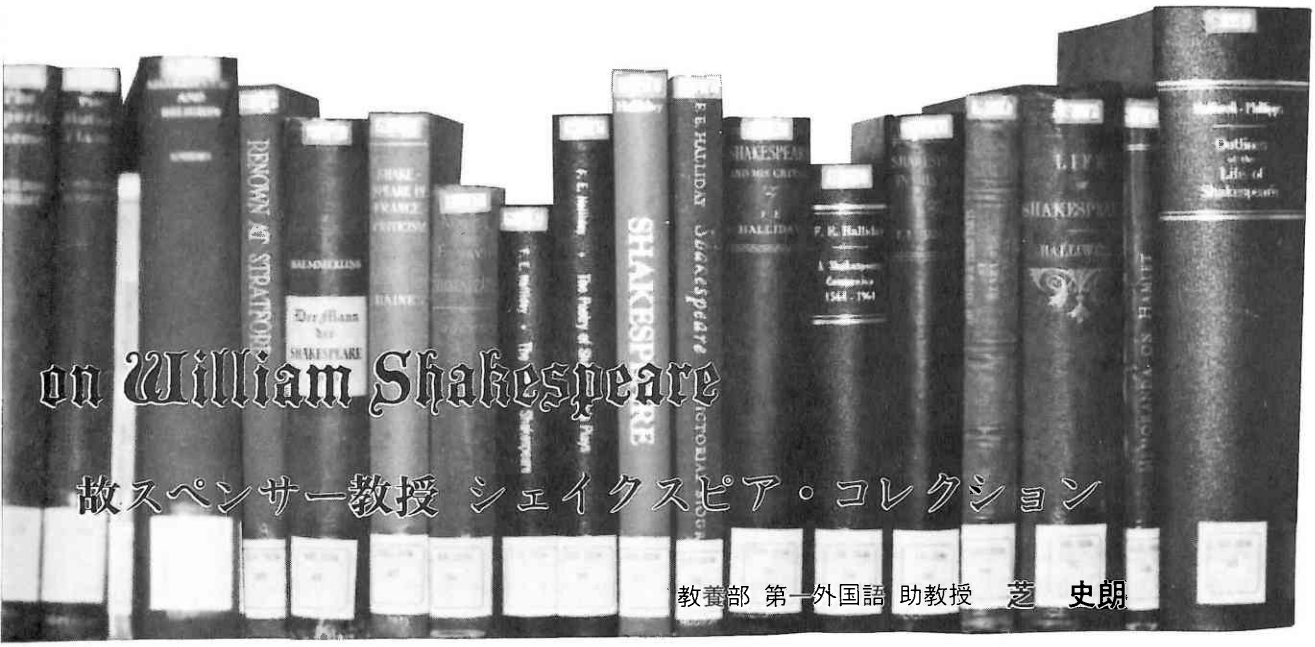
〔故スペンサー教授・シェイクスピア・コレクション〕

このコレクションは、バーミンガム大学シェイクスピア研究所の所長、故テレンス・スペンサー教授 (the late Professor Terence John Bew Spencer) のもと個人蔵書であり，シェイクスピアの生涯と作品を多面的に論じる図書約1000点と生前世界中の研究者から彼に贈呈された237点の論文抜刷とからなる。

〔ＴＪＢスペンサー教授〕

教授は、ロンドン大学の出身で、第二次大戦前にはアテネとローマの英国文化センターで教えている。彼が後にギリシャ・ラテン文学と英国ルネッサンス期の文学との関係を研究するようになる基礎は、このとき得られたといえる。戦後は母校ロンドン大学を経て、1958年バーミンガム大学教授に就任した。①1961年故アラダイス・ニコル教授 (the late Professor Allardyce Nicoll) の後任として、スペンサー教授は、1978年３月３日に亡くなるまでシェイクスピア研究所・所長を務めている。彼は所長在任中シェイクスピア研究所の大学院をシェイクスピアの生地であるストラットフォード・アポン・エイボンからバーミンガム大学本部に移設し、シェイクスピアとルネッサンス期英文学研究の一層の充実を図る。さらに同研究所の所長として、ここを訪れる学生や研究者のために短期の研修プログラムを準備し、２年毎に開催される国際シェイクスピア会議 (the International Shakespeare Conference) の座長役、及び王立シェイクスピア劇場の理事やその他の劇場の役員をも兼務した。②

わが国には、1969年秋に日本シェイクスピア協会の招きで来訪し、各地で精力的に講演活動を行なっている。その講演の中から教授は、日本の英文学研究雑誌「英語青年」(第116巻、第２号、1970年）に「シェイクスピアの『冬物語』における芸術的技巧」(“the Artistry of Shakespeare's *The Winter's Tale*”）と題して寄稿しているが、この論文にも彼の精密・確実な学風と古典文学への造詣の深さを垣間見ることができる。また亡くなる前年の1977年秋にはブリティッシュ・カウンシル（英国文化協会）主催の宮島セミナーの講師として来日し、過密な日程を精力的にこなしたと聞く。彼は、ヨーロッパ文学の歴史に関して百科事典的知識を持ち、ヴァージルやダンデの一節をシェイクスピアを引用するごとくいともたやすく、しかもウィッ



故スペンサー教授 シェイクスピア・コレクション

教養部 第一外国語 助教授　芝　史朗

トにあふれ、感性豊かに引用してのけたといわれている。③

スペンサー教授の確実・精緻な学風は、彼の恐らく最も重要な業績の一つであり、自身が編集主幹を務めた新ペンギン・シェイクスピア・シリーズ、殊に彼自身の編集による『ロメオとジュリエット』にも窺えよう。惜しむらくは、同シリーズの『ハムレット』の編集が序文のみを残して未完に終ったことである（「序文」は、アン・バートン教授 (Professor Anne Barton) が代って執筆している)。

教授のシェイクスピア学への貢献は、編集主幹を務めたこのシリーズとペンギン・シェイクスピア・ライブラリーを抜きにしては語れまい。彼はまた「モダン・ランゲジ・リヴュー」*(Modern Language Review)*　及び彼自身が創刊した『英語研究年鑑』*(The Yearbook of English Studies)* の編者でもあった。

シェイクスピア関係の著書：

Fair Greece, Sad Relic: Literary Philhellenism from Shakespeare to Byron　(1954)

William Shakespeare: The Roman Plays (1963)

主な編著：

New Penguin Shakespeare: *Romeo and Juliet* (1967)；*Hamlet*　(1980)

Shakespeare: A Celebration 1564-1964　(1964)

Shakespeare's Plutarch　(1964)

Elizabethan Love Stories　(1968)

主な論文：

"Shakespeare and the Elizabethan Romans" (1957)

"The Tyranny of Shakespeare" (1959)

"The Decline of Hamlet" (1963)

尚 Stratford-upon-Avon Studies 5 *Hamlet* (128) ④に掲載されている "The Decline of Hamlet"以外、彼の著書は本コレクションには含まれていない。

〔コレクション〕

このコレクションに入っている図書は、1801年より1982年の間に主として英米において刊行されたものである。特定のテーマや作品を扱わない一般的研究書が最も多く、次いで悲劇論がやはり圧倒的に多い。次に伝記、詩論、さらに歴史劇・ロマンス劇・喜劇・問題劇及びローマ劇に関するもの、創場論、上演論、舞台論、性格批評、本文批評、劇構造論、文体・言語論や心理分析批評その他がほぼ同様の割合で含まれている。いわば現代におけるシェイクスピアの多

面的批評のありようそのものが、このコレクションの特色の一つとなっているといえるだろう。

英国学士院 (British Academy, 1893年創設) によるシェイクスピア年次講義の第一回目(1911年)

512 Jusserand, J. J. "What to expect of Shakespeare". (First Annual Shakespeare Lecture)

より1973年までの間に発表されたもののうち15点の論文が含まれていること、及びドイツ(グンドルフ Friedrich Gundolf の『シェイクスピアとドイツ精神』*(Shakespeare und der Deutsche Geist* 280 (1920)) を勿論含む) フランスその他の国々におけるシェイクスピア研究書とテクストが入っていることも特色といえよう。コレクションの主体をなしているのは、1950年～1960年に刊行された書物であるため、最近とみに脚光を浴びるにいたった「観客反応論」等のテーマを扱う書物はほとんど見られないのはやむを得ないが、⑤そのかわりシェイクスピア批評の歴史において少なくとも一つの時代をつくり出したテーマ「ベイコン＝シェイクスピア説」(Baconian Thory) を論じる書物がかなり含まれているのは、本コレクションのもう一つの特色である。

シェイクスピアの作品とされる戯曲や詩は実は、フランシス・ベイコン (Francis Bacon) によって書かれたものであるとするこの説は、1769年 H. ロレンス (Herbert Lawrence)によって最初に提唱された *(The Life and Adventures of Common Sense)*。その後この考え方は、W. H. スミス (William Henry Smith)、デリア・ベイコン (Delia Bacon)、I. ダンリー (Ignatius Donnelly, 元合衆国上院議員で大統領候補)、小説家マーク・トゥウェイン (Mark Twain)、ダーニング・ロレンス (Sir Edwin Durning-Lawrence) 等によって展開された。当コレクションには、

843 Smith, William Henry. Bacon and *Shakespeare: An Inquiry Touching Players, Playhouses, and Play-Writers in the days of Elizabeth* (1857)

234 Donnelly, Ignatius. *The Great Cryptogram: Francis Bacon's Cipher in the Socalled Shakespeare Plays.* In 2 vols. (1888)

246 Durning-Lawrence, Sir Edwin. *Bacon is Shake-speare* (1910)

247 Durning-Lawrence, Sir Edwin. *The Shakespeare Myth* (1912)

及び著者不明のものも合わせ約20点入っている。ベイコン＝シェイクスピア説以外に50以上のシェイクスピア他人説があるといわれているが、主だった4つの説(ベイコン説、オックスフォード伯説、ダービー伯説及びクリストファー・マーロー説について論じているのが、

345 Gibson, H. N. *The Shakespeare Claimants: A Critical Survey of the Four Principal Theories Concerning the Authorship of the Shakespearean Plays* (1962)

いずれにしてもシェイクスピア他人説の大前提となる共通の考え方は、「十分な教育も受けていない田舎出の人間にあれほど深遠で広範囲に及ぶすぐれた作品が書けるはずがない」という単純なもので、今日のシェイクスピア学の本道とは別のところで、しかも十分な論拠がないままにその命脈を細々と保っているのも興味深い。

327 Friedman, William F. and Elizabeth S. Friedman. *The Shakespearean Ciphers Examined: An Analysis of Cryptographic Systems as Evidence that some Author other than William Shakespeare wrote the plays commonly attributed to him.* (1957)

これらは勿論、当コレクションにおいて圧倒的に多い悲劇論や伝記研究書の数の比ではないが、世の注目を集めようとするためか、シェイクスピア関係の資料が偽造されたり、捏造されたりしたことが過去にあったことを思えば、⑥それほどにこのシェイクスピアという人間には作家としての魅力があり、作品の卓抜さがあるという一つの証左でもあろう。

尚このスペンサー・コレクションのすべての図書は、そのイニシャルであるSCの文字を背表紙に付けられ、一括して中央図書館に収められているのも利用者にとって有難いことである。

注

1 "片々録"「英語青年」第124巻第3号(1978年6月)、P. 45

2 マシスン "故スペンサー教授追悼論文"「バーミンガム大学・学報」(Dr. T. P. Matheson, "The Late Professor T. J. B. Spencer,"

University of Birmingham Gazette, vol. 30 (1978))。

3　同上論文参照。

4　以下書名に付した数字はこのコレクションの通し番号である。

5　舞台技術論、観客反応論で例外的に含まれているのは、

52 Beckerman, Bernard. *Shakespeare at the Globe, 1599-1609* (1962)

126 Brown, John Russell. *Shakespeare's Plays in Performance* (1966)

453 Honigmann, E, A. J. *Shakespearian Tragedy anb the Mixed Response* (1971)

6　例えばコリア（J. P. Collier）のものがそうであり、

189 Collier, J. Payne. *Notes and Emendations to the Text of Shakespeare's Plays, from early manuscript corrections in a copy of the Folio, 1632* (in the possession of J. J. Payne Collier, Esq., F. S. A., forming a Supplemental Volume to the Works of Shakespeare by the same editor, in eight volumes) (1853)

それに対する弾劾の書が次の２点である。

402 Hamilton, N. E. S. A. *An Inquiry into the Genuineness of the Manuscript Corrections in Mr J. Payne Collier's Annotated Shakespeare, Folio, 1632; and of certain Shakespearian Documents likewise p published by Mr. Collier.* (1860)

820 Singer, Samuel Weller. *The Text of Shakespeare Vindicated from the Interpolation and Corruptions advocated by John Payne Collier, Esq. in his Notes and Emendations.* (1853)

参考文献

Campbell, Oscar James ed. *The Reader's Encyclopodia of Shakespeare:* New York: Thomas Y. Crowell Company, 1966.

Chambers, E. K. *William Shakespeare: A Study of Facts and Problems.* London: Oxford University Press, 1966.

Halliday, F. E. *A Shakespeare Companion.* 1952. Reprint. Penguin Shakespeare Library, 1964.

倉橋　健編『シェイクスピア辞典』東京堂、1972年。